

指導講評

部活動ライフスタイルの転換

文教大学人間科学部教授

二宮 雅也

問題の所在

①

部活動＝イメージできる

地域クラブ＝イメージできない or イメージがずれている



イメージできないものを考えたり、話し合ったりすることは非常に困難

②

部活動のイメージ＝○

部活動のイメージ＝△×



良いイメージのものを変えるということも非常に難しい

これらは、**主体性**の問題

主体性とは、自分の意志や判断において、**自ら責任を持って行動すること**

主体性を奪われるのでは・・・

大きな問題の所在

- 部活動改革の主体は？（念の為、運営主体とは別の意味です）

国？、都道府県？、市町村？、市民？、生徒？・・・



いま、進んでいる市町は、改革の主体が明確なところ、実行の主体が明確なところ
（実態は誰かが無理してがんばっているのでは？）



本来は、全ての人が主体的に考えることのできる段階まで進めることが重要

部活動ライフスタイルが染み付いていると・・・

1. 送迎問題（保護者の関わり方）

なぜ送迎だけなのか？その場所まで行くのであれば、送迎者も参加できる形をなぜ考えないのか？ → クラブってみんな同じ目的を共有して楽しむ場所

2. お金の問題

なぜお金がかかるのか？（疑問） → なぜお金をかけるのか？（納得）

例：中学生のクラブ参加者がいずれ指導者になる時、自分だったらどうありたい？

なぜスポンサーになってくれるの？ → スポンサーになるメリットがあるから

3. ボランティアだと限界がある

- ・ ボランティア＝無償であるとの勘違い
- ・ ボランティアは自らの意思で活動をささえてくれる人々（最大の応援者）
なぜささえるのか？ → ささえたいものがあるから

地域クラブ活動の未来

- クラブがあってよかった、人生が楽しい
- クラブは変わり続けるもの（生きもの）
- クラブは関わる、すべての人がささえるもの（主体性）
- クラブライフは、人生そのもの、自分の居場所

なぜささえるのか？→ささえたいものがあるから

例：浦和レッズの熱狂的なサポーター
とあるゴルフクラブの会員の方々
市民交響楽団の団員さん
ボランティアサークルの皆さん
祭りの実行委員会のみなさん